川村俊蔵・東滋・和泉剛[2]・伊藤美恵子[2]

中村克哉を代表とする上記研究において，ニホンザル・タヌキ・キツネの研究を行ない，農林業との関係および生態学的管理方法の研究を行なった。またアカネズミ・ヒメネズミについて同様な研究を行なった。

総　　説

1) 河合雅雄 (1974)：動物社会における性の役割。言語 3, (12).
2) Kawai, M. (1975): Precultural Behavior of the Japanese Monkey: Hominization und Verhalten, sond. aus Kurth und Eibl-Eibesfeld, Gustav Fischer, Stuttgart.
3) 鈴木　晃 (1974)：にんげんとは何か。にんげん百科，5 (12)：1516—1520.
4) 東　　滋 (1974)：生態・自然保護。霊長類シリーズ。臨床科学。
5) 東　　滋 (1974)：けものからみた森。林研。
6) 東　　滋 (1975)：下北半島のニホンザル—その生活季節。四手井綱英編　もりのけもの (印刷中)。

論　　文

1) 川村俊蔵・村松正敏・福田史夫 (1974)：1973年秋における小豆島のニホンザルの現状と問題点。哺乳類科学 28, 29：125-139.
2) Kawamura, S. (1975): Chap. 3, Present Stautus of the Fauna and Its Conservation. 3-1, Mammals. JIBP Synthesis, 9：57-61.
3) 鈴木　晃 (1972)：房総丘陵のニホンザル。自然 27 (10)：96—101.
4) Suzuki, A. (1972): On the problems of the conservation of the Japanese monkey on the Boso peninsula, Japan. *Primates* 13(3)：333-336.
5) 森　梅代 (1974)：幸島に生息するニホンザル自然群におけるコドモの遊びの仲間関係。人類学雑誌，82巻4号。

報告その他

1) 川村俊蔵 (1974)：獣類からみた大峯山脈。吉野熊野国立公園・大峯地区学術調査報告書，pp. 29—44。奈良県。
2) 山村俊蔵 (1974)：吉野熊野国立公園地域の哺乳類について。吉野熊野国立公園学術調査報告。pp. 49—56。日本自然保護協会・関西支部・資料 No. 5。
3) 川村俊蔵・和泉剛・雫石邦義 (1974)：東中国山地の哺乳類に関する調査報告。東中国山地自然環境調査報告 pp. 67—80。兵庫県・岡山県・鳥取県。
4) 川村俊蔵・和泉剛 (1974)：愛知県下の哺乳類の分布に関する予察調査。尾張パークウェイ建設予定地域の自然環境調査報告書。愛知県道路公社。p. 117＋地図17葉。
5) 東滋・伊藤徹魯 (1975)：神崎川流域の哺乳動物。岐阜県環境局。
6) 東滋・伊藤徹魯 (1975)：根尾谷の哺乳動物。岐阜県環境局。
7) 東滋・林勝治 (1975)：：和良川流域の哺乳動物。岐阜県環境局。
8) 東滋ほか (1975)：ツキノワグマ調査報告 (1974年度) 手稿。岐阜県企画部。

学 会 発 表

1) ゲラダヒヒの音声伝達と社会関係
河合雅雄
第28回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1974)

2) アフリカの熱帯林に於ける各種霊長類の行動域について
鈴木　晃
第19回プリマーテス研究会 (1975)

3) Social relations and behavior of gelada baboons-Studies of gelada society.
Mori, U., & M. Kawai
5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

4) ゲラダヒヒの One-male unit の社会構造
森　梅代
第28回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1974)

5) The Present Situation of Japanese Monkeys and Consideration of Their Conservation.
S. Kawamura
5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

6) 下北半島におけるカモシカの生息頻度の変動 I，下北半島西南部の場合
東・足沢・大竹・営木・森・和田
日本哺乳動物学会 (1975)

変異研究部門

野沢　謙・江原昭善・和田一雄
西邨顕達・庄武孝義

研 究 概 要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究
野沢　謙・庄武孝義

2) 研修員

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し，群内，群間の変異性を定量化する。昨年度までにニホンザル約40群，総個体数約1,500頭の血液試料について，27種の蛋白の構造を支配する計29遺伝子座の検索をおこなった。このデータをもとにして，統計的検討を加え，繁殖単位間の毎代の移出入率，遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い，ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業続行中である。

2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係

野沢謙・庄武孝義

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から採血をおこない，上記 1) と同一の方法によって種内，種間の遺伝的変異性を定量化し，それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し，それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係，分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。

3) ニホンザルの先天的四肢奇型への遺伝学的アプローチ

野沢　謙・庄武孝義

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天的四肢奇型が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇型出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定をおこなう他，淡路島野猿公園の協力を得て，交配実験をおこなっている。

4) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野沢　謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって，家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と，個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度，系統的相互関係の解明をおこなう。この目的のために，1974年秋に東京大学の文部省科研費による海外学術調査の隊員として庄武がマレーシヤ連邦に出張した。

5) 霊長類各分類群の形態学的研究

江　原　昭　善

1. 頭部支持機構の形態学的研究

四足性および軀幹直立性の霊長類各分類群について，頭部と軀幹（特に頸部）の位置関係に大きな差のあることが経験的にも指摘できるが，実際に斜台 Clivus を基準に比較するとき，あまり大きな差が認められない。そして従来知られていない頭頸部キフオーゼが普遍的に見られることがわかった。これらの特徴を手がかりに，霊長類各分類群の頭部支持機構を，形態学的にさらに分析を加えつつある。

2. 間顎骨にみられる形態変異

a. *Cercopithecidae* と *Colobidae* における顎骨の成長の形態的相異については，すでに1974年度に指摘，発表してきたが（*Subgnathie* と *Prognathie*），これらの相異は間顎骨の形態にも著明に認められる。現在このような観点から間顎骨の形態変異について分析を進めている。

b. 前鼻棘 *Spina nasalis anterior* の固定について

すでに霊長類各群と人類（化石人類を含む）とにおいて *Spina nasalis anterior*（=*Tubercula nasalia*）との同定研究完成し，人類学雑誌に投稿中。

6) 志賀A群総合調査の組織化

和　田　一　雄

われわれこれまでの生態研究成果の上に生理・形態・集団遺伝・繁殖生理等の諸分野から寒冷適応の実態を明らかにする研究を組織したが，その一部を分担した。

7) 志賀C群の冬期の遊動

和　田　一　雄

志賀高原でもっとも標高の高い地域に分布するC群の気象・植生との関係を調査した。同時にC群の保護運動にも加わった。

8) ゼニガタアザラシの分布調査

和　田　一　雄

哺乳類研究グループ海獣談話会の調査を分担した。

9) 高崎山生息ニホンザルの行動と個体群動態

西　邨　顕　達

行動研究についてはもっぱらここ数年とってきたデータの整理を行った。個体群動態については，生活史部門の杉山幸丸氏，大沢秀行氏，共同研究員増井憲一氏および日本モンキーセンターの木村光伸氏と共同でセンサスを行なった。現在共同調査報告の一部として高崎山ニホンザル集団の10年間の社会変動について執筆中である。

10) アマゾン上流域における広鼻猿類の社会生態学的研究

西　邨　顕　達

前回につづき1975年7月より約1年間，日本モンキーセンター第3次南米調査隊に加わり，コロンビア国，カケタ河の支流ペネジャ川流域で，9属10種のサルの調査を行ない，とくにウーリーモンキーについてより集中的な調査を行なう予定である。

総　　説

1) 野沢　謙（1975）：ニホンザルの集団遺伝学，生物科学27（1）：43—54。

2) 江原昭善（1974）：ホミニゼーションとは何か。言語 3（11）：

3) 江原昭善（1974）：自己家畜化と人の進化。言語 3（12）：

4) 江原昭善（1974）：初期人類の形態特徴とその適応

的意義。岩波「生物科学」26 (4)：169—174。

5) 江原昭善 (1974)：ゲラダヒヒについて。平凡社アニマ 19：22—23。

6) 江原昭善 (1974)：人類 ― ホモサピエンスへの道。NHK ブックス。

7) 和田一雄 (1974)：オットセイの起源に関する一試論 (Ⅰ)。海洋科学 6 (11・12)：

8) 和田一雄 (1975)：オットセイの起源に関する一試論 (Ⅱ) 海洋科学 7 (1・2)：

論　　文

1) Nozawa, H., T. Shotake and Y. Ohkura (1975): Blood protein polymorphisms and population structure of the japanese macaque, *Macaca fuscata fuscata* in Isozymes IV. Genetics and Evolution, ed. C. L. Markert, Academic Press, pp. 225-241.

2) Shotake, T. and K. Nozawa (1974): Genetic polymorphisms in blood proteins in the troops of japanese macaques, *Macaca fuscata*: I. Cytoplasmic malate dehydrogenase polymorphism in *Macaca fuscata* and other non-human primates. *Primates*, 15 : 219-226.

3) Shotake, T. (1974): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of japanese macaques, *Macaca fuscata*: II. Erythrocyte lactate dehydrogenase polymorphism in *Macaca fuscata*. *Primates*, 15 : 297-303.

4) Shotake, T. and Y. Ohkura (1975): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of japanese macaques, *Macaca fuscata*: III. Erythrocyte carbonic anhydrase polymorphism in Macaca fuscata. *Primates*, 16 : 17-22.

5) 江原昭善 (1975)：愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡出土人骨について。愛知県教育委員会編。

6) 山平トモ・江原昭善 (1975)：ヒトを含む霊長類手掌・足蹠の触覚神経終末 (特に Meißner 小体および Vater-Pacini 小体) の分布密度の比較。岐阜大・医学部紀要 23(1)。

7) 和田一雄 (1974)：日本のラッコ・オットセイ猟業の変遷と資源管理論の成立過程。北海道史研究 3：15—28。

報告その他

1) 西邨頭達 (1974)：サルのコミュニケーション ― 生態のはなし ― エレクトロニクス，pp. 1084—1088。

学 会 発 表

1) 血液蛋白変異による Macaca 属サルの種間比較。
野沢　謙・庄武孝義・大倉よし子
北島正子・田名部雄一
第19回プリマーテス研究会 (1975)

2) Genetic variations within and between troops of *Macaca fuscata fuscata*.
Nozawa, K., T. Shotake, Y. Ohkura, M. Kitajima and Y. Tanabe
5th Cong. Inr. prim. Soc. (1974)

3) A fixed state of the PGM_2^2 allele in the population of *Macaca fuscata yakui*.
Shotake, T., Y. Ohkura and K. Nozawa.
5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

4) リスザル (*Saimiri sciurea*) の血液蛋白質の遺伝的変異
庄武孝義・大倉よし子・野沢　謙
第19回プリマーテス研究会 (1975)

5) 頭部支持機構との関連からみた頭頸部キフォーゼ
江　原　昭　善
第28回日本人類学会 (1974)

6) 旧世界ザルの間顎骨にみられる形態変異
江　原　昭　善
第19回プリマーテス研究会 (1975)

7) 志賀A群の年間体重変化 (予報)
和田一雄・常田英士・油田よし子
第19回プリマーテス研究会 (1975)

8) The group characteristics of woolly monkeys (*Lagothrix lagothrica*) in the upper Amazonian basin.
Akisato Nishimura & Kosei Izawa
5th Cong. Int. prim. Soc. (1974)

生活研究部門

杉山幸丸・小山直樹
田中二郎・大沢秀行

研　究　概　要

1) ニホンザル個体群生態学的研究
杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行

1. 霊仙山生息ニホンザル地域個体群の動態。餌付けを放棄した2つの野生群の全個体標識識別を基礎に，餌付け期間中と対比させながら人口学的研究を進めてきた。

2. 嵐山生息ニホンザルの個体群動態。全個体に関する出産・死亡・離脱などの資料の収集と分析をおこな